

目覚めよ！ 民進党

参院選愛知選挙区 同盟系労組OBらが喝！

「今、再編か新党結成の岐路に」



民主王国再生のため喝を入れる柘植幸録氏

七月十日投票の参院選で改選数一増となった愛知選挙区（改選数四）に民進党は二人の候補者を擁立したが、当初は現職一人で調整が進んでいた。これに待ったをかけたのが旧民社党系の労組である愛知友愛連絡会。元委員長らOBらはこのほど秘かに集まり、二人当選へ向けて独自に動き出した。政権を手放して以降、自信をなくしたのか精彩を欠く民進党に「喝」を入れるOB組織の主張に耳を傾けた。かつての「民主王国・愛知」復活への道筋は見えるのだろうか。

「三人区から一つ増えた四人区となったのにも関わらず、当初、民進党愛知は現職一人の公認で参院選を戦おうとしていた。それで政権奪還を目指す党と言えるのか、という声が友愛連絡会から上がり、何とか二人公認にこぎつけた。しかし、党県連内の選挙態勢は二人当選へ向けて調整すべく動いていません。そこでOBが集まって意思統一を図り、新人候補の支援に全力を尽くそうと決意したのです」

こう話すのは旧民社党系労組、同盟出身で、連合愛知の初代会長を務めた柘植幸録氏（七十九歳）。五月下旬、名古屋市内に集まったのは「JUSTICE-21 OB会」（約二〇人）のメンバーで代表の柘植氏のほか、電力総連、三菱重工、日産労連、J P、ゼンセン同盟などの元組合委員長、民社協会会長ら十数人が出席した。会は旧民社系労組OBらの勉強会、親睦会として二〇年ほど前に発足、昨年解散したが、今回の参院選への党県連の対応を見るに見かねて、懇談会として再招集された